

太東沖のヒラメは今期も好調 今後はイワシの回遊に要注目

●当日最大は2キロ級。今後はさらなる大型に期待



魚平

●深場はエンジン流し、浅場は横流して狙う



●平物特有の引きが楽しい



10月に全面解禁となった外房エリアのヒラメ釣り、開幕以降も順調に釣れている。取材した外房太東港の勸業丸では沖の水深40〜50メートル前後と灘寄りの浅場を攻め分けており、取材日は0.4〜2.1キロを一人2〜5枚とオデコなし。今のところ深場ではアタリは少ないものの型がよく、浅場ではアタリは多いが小型も多い傾向にあるというが、今後水温が下がって灘寄りの浅場にイワシの回遊が見られれば、良型の期待度はさらに高まるだろう。
(詳細は58ページ参照)

●外房太東港・勸業丸
渡辺 秀明船長(右)と真澄船長



●今からヒラメ釣りは小型がメイン



●小型でも1枚釣ればはこれじ



●このサイズは食い込ませるのが難しい



●深場ではキントキも交じった



●ヒラメ釣りの真本命と言われるのがマハタ



●魚影の濃さは例年とおり

孫バりを遊ばせるのも一手



孫バリは通常、背側か腹側のどちらかに刺す。しかし、イワシが小さい場合や水温が高い場合は、エサのイワシが弱りやすく、孫バりを刺すと泳ぎが悪くなってしまう。そういうときの手段として、孫バりを刺さずに遊ばせておく方法がある。ちょうどジギングのアシストフックのような感じになり、エサは弱りにくい。ヒラメはエサを一気に吸い込む魚ではないが、遊ばせた孫バりに掛かることがしばしばある。この日の筆者の釣った2枚は、いずれもこの付け方だった。ただし根掛かりの多い場所では、この孫バりを遊ばせる付け方はおすすめできないので注意してほしい。